国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和４年６月２９日
都市局　都市計画課

# 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査（第二弾）

## ～テレワークや自宅周辺の活動が定着してきていることを確認～

国土交通省では、新型コロナ危機を踏まえた今後のまちづくりを検討するため、前回調査（令和２年８月）に続き、感染者数が比較的落ち着いた時期及びオミクロン株が流行している時期の２時点で、市民の日常的な行動や意識がどのように変化してきているのか、全国の大都市を中心としたアンケート調査を実施しました（サンプル数約 13,000）。

調査の結果、新型コロナ感染者数の増減に関わらず**「テレワークや自宅周辺の活動が定着」**してきていることや、人々の求める都市施策として、**「ゆとりある屋外空間の充実」や「自転車や徒歩で回遊できる空間の充実」へのニーズが引き続き高いこと**が確認されました。

**○調査対象時期について**

□：前回調査　□：**今回調査**

① 流行前　：新型コロナ感染症流行前
② 令和２年４月　：第１回緊急事態宣言発令中
③ 令和２年８月　：第１回緊急事態宣言解除後
**④ 令和３年12月：感染者数が比較的落ち着いた時**
**⑤ 令和４年３月　：オミクロン株流行時**

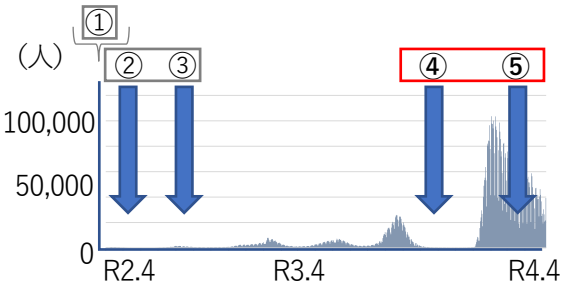



図１：全国のコロナ感染者数の推移と調査対象時期

## １．調査結果

### （１）テレワーク実施層の割合が安定傾向に

・週１日以上テレワークを実施する層については、最初の緊急事態宣言中に大きく割合が増加、緊急事態宣言解除後に減少するものの、新型コロナ流行前と比較して増加し定着（図２）

・週１日以上テレワークを実施する層は、デメリットを感じる人の割合が低下（別紙４頁）

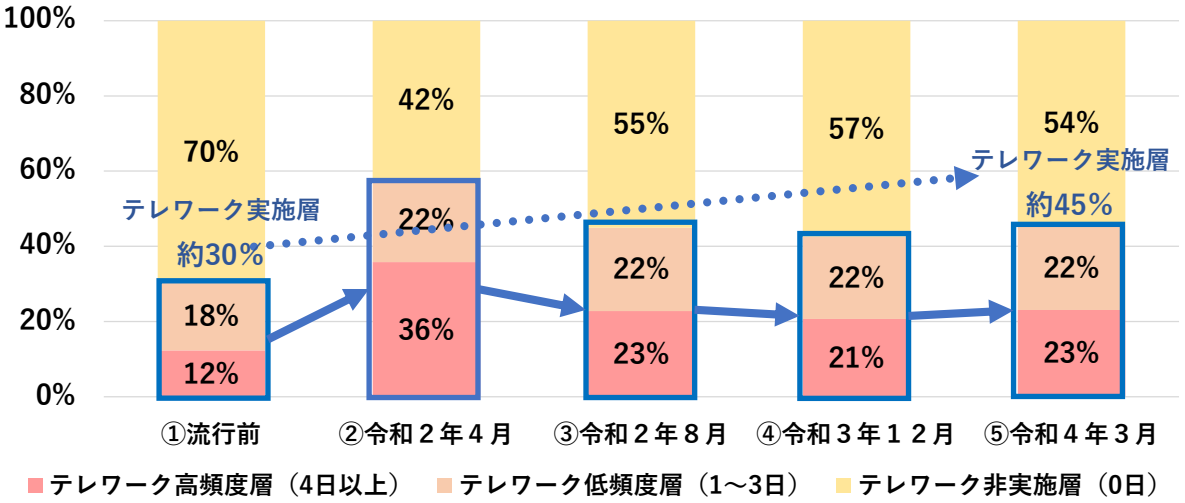



図２：就業者におけるテレワーク実施者の割合の推移

## （２）自宅周辺での活動も定着傾向に

・日常の活動別に最も頻繁に訪れた場所については、「外食」や「趣味娯楽」、「軽い運動、休養、育児」では自宅周辺での活動が新型コロナ感染症流行前と比較して増加し定着（図３）

・「食料品・日用品の買い物」や「食料品・日用品以外の買い物」では、高頻度でテレワークを実施する層以外は活動場所に変化は見られない（別紙４頁）

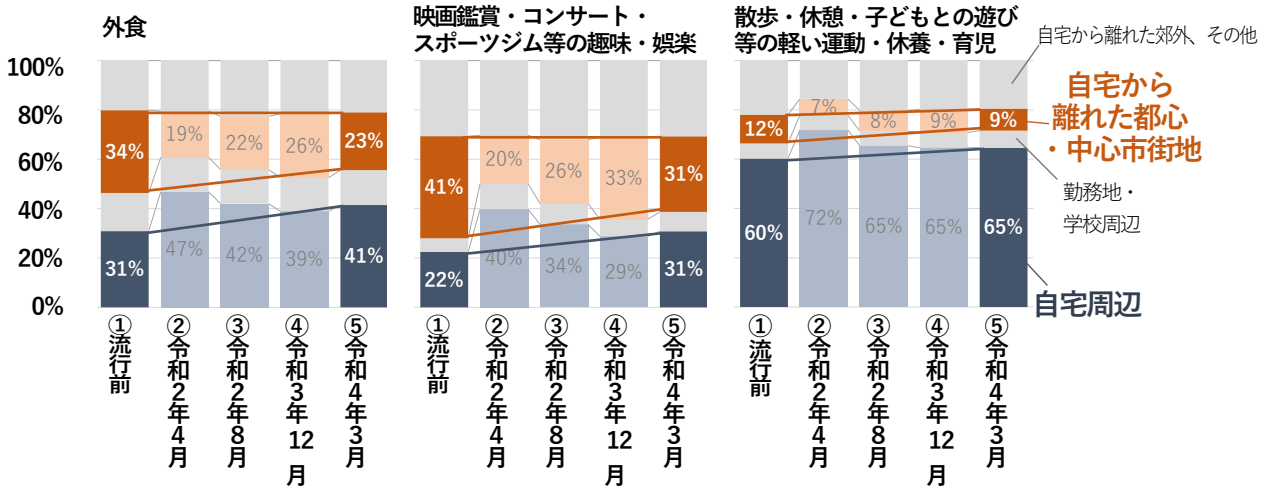



図３：人々の活動場所の割合の推移

## （３）都市に求める取り組みとして、屋外空間や回遊空間へ高いニーズ

・「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実」「自転車や徒歩で回遊できる空間の充実」への要望は、前回調査（令和２年８月）から引き続き高い割合

| | R2年度調査 | R3年度調査 |
|---|---|---|
| 公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実 | 46.0% | 44.6% |
| 自転車や徒歩で回遊できる空間の充実 | 37.4% | 39.4% |
| 屋外での飲食やテイクアウトが可能な店舗の充実 | 35.4% | 30.0% |
| 駐車場の整備など自動車利用環境の充実 | 26.2% | 29.4% |
| リアルタイムで混雑状況を把握できるアプリ等の充実 | 33.3% | 27.1% |
| この中にはない | 21.3% | 22.6% |
| （屋内ではなく）屋外でのイベントの充実 | 16.1% | 13.8% |

表１：都心や中心市街地で充実すべき取組（複数回答あり）

## ２．詳しい調査結果の公表について

今回の調査の詳細な結果については、HP（下記リンク参照）をご参照ください。
https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000056.html

こちらのページでは、基礎的な集計データの公表もしておりますので、積極的なご活用をお願いいたします。


**【問い合わせ先】**
国土交通省都市局都市計画課　都市計画調査室　大嶋、村上
電話 03-5253-8111（内線 32672、32684）、03-5253-8411（直通）

# 全国の都市における生活・行動の変化

別紙

―R3年度 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要 ―

1.調査趣旨

〇新型コロナ感染症感染拡大を機に、市民の意識、価値観が変容し、これにより市民の生活スタイル、ビジネススタイル等が大きく変化した可能性

〇今後のまちづくりの方向を考えるにあたり、市民の日常的な行動がどのように変容し、また“まち”に対する意識がどのように変化したのか等を把握するため、WEBアンケート調査を実施

2.調査対象都市

〇前回調査と比較を行う観点から、R2年度実施の「生活行動調査」と同じ都市を対象として実施※

| まん延防止等重点措置（～2022/3/21） | 左記以外 |
|---|---|
| 札幌市、東京都市圏（茨城南部、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県の市区町村）、金沢市、静岡市、岐阜市、名古屋市、大阪市、豊中市 | 盛岡市、仙台市、静岡市、四日市市、奈良市、広島市、松山市 |

※新型コロナ感染症の感染者が多い東京都市圏及び、全国的な傾向を把握するため、全国都市交通特性調査の対象地域から都市類型や特定警戒都道府県の有無の観点から対象都市を抽出。

3.調査対象

〇WEBアンケート調査会社に登録しているモニターに対して調査を実施
（回収サンプル：13,301）

4.調査時期

〇令和4年3月3～16日

5.調査方法

〇WEBアンケート調査会社を通じたWEBアンケート調査

6.調査項目

〇令和3年12月、令和4年3月(まん延防止等重点措置期間中)の2時点の1日の行動時間
〇令和3年12月、令和4年3月(まん延防止等重点措置期間中)の2時点の活動頻度
〇新型コロナ感染症による意識変化等

7.成果の活用

〇本調査は、新型コロナ感染症を踏まえた新しい生活様式に対応した、都市政策、交通政策等を立案する際の基礎情報として活用

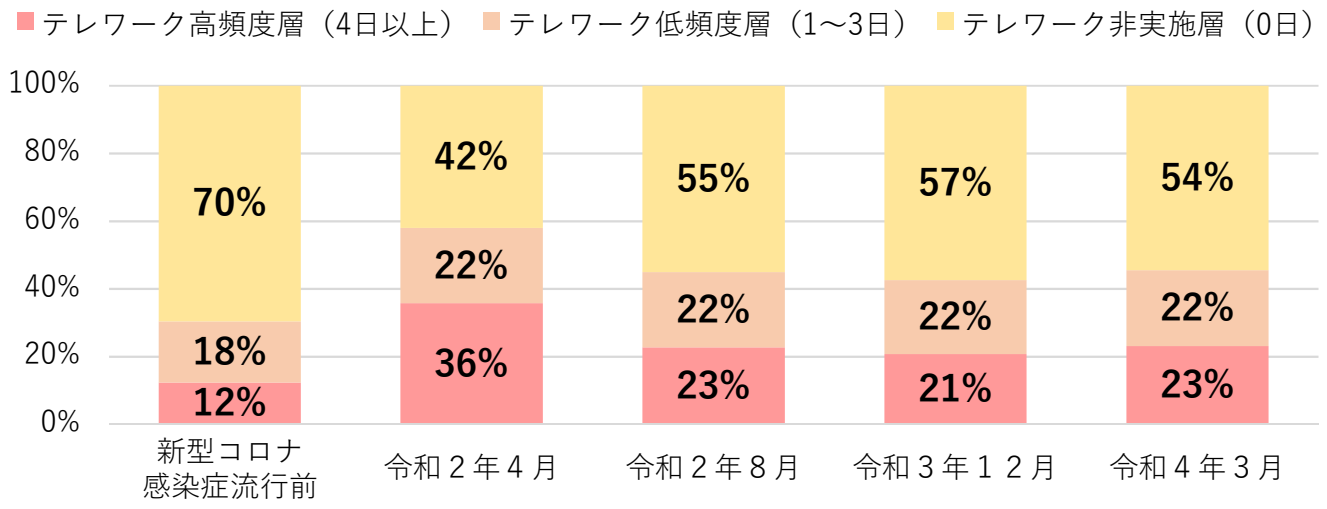
※本調査の実施にあたっては、出口 敦　東京大学大学院新領域創成科学研究科　教授 、谷口 守　筑波大学システム情報系社会工学域　教授からご助言いただいた。

# 全国の都市における生活・行動の変化

―R3年度 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要 ―

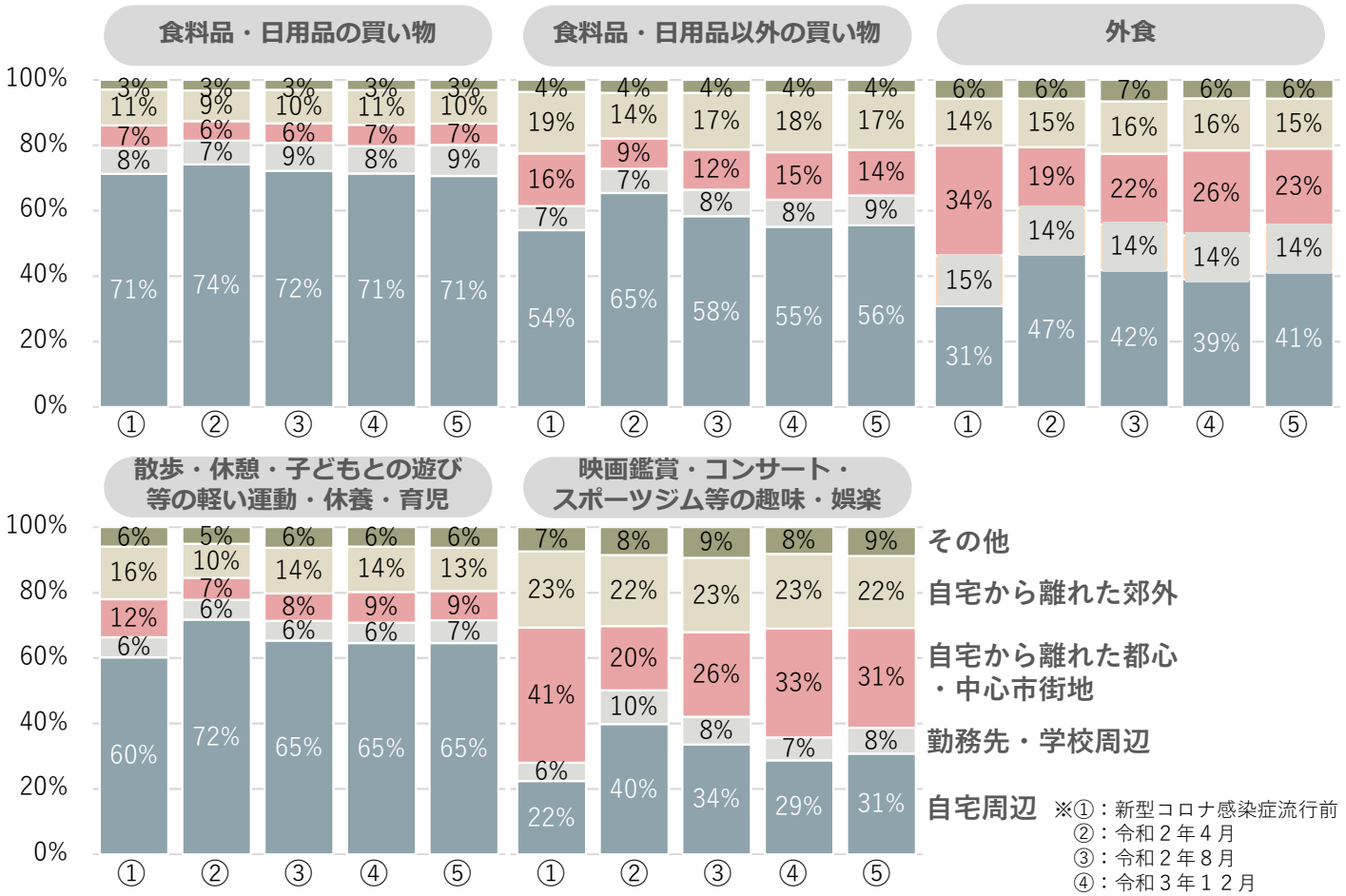
## 1 就業者に占めるテレワーク実施者割合

・テレワークを週１日以上実施する者は、最初の緊急事態宣言中に大きく割合が増えた後、減少するものの新型コロナ流行前と比較して高い水準で安定している。




## 2 活動別の最も頻繁に訪れた場所

・「食料品・日用品の買い物」など場所がほとんど変化しない活動がある一方、自宅周辺での活動が新型コロナ感染症流行前と比較して増加し定着している活動も見られる。




※①：新型コロナ感染症流行前
②：令和２年４月
③：令和２年８月
④：令和３年１２月
⑤：令和４年３月

# 全国の都市における生活・行動の変化

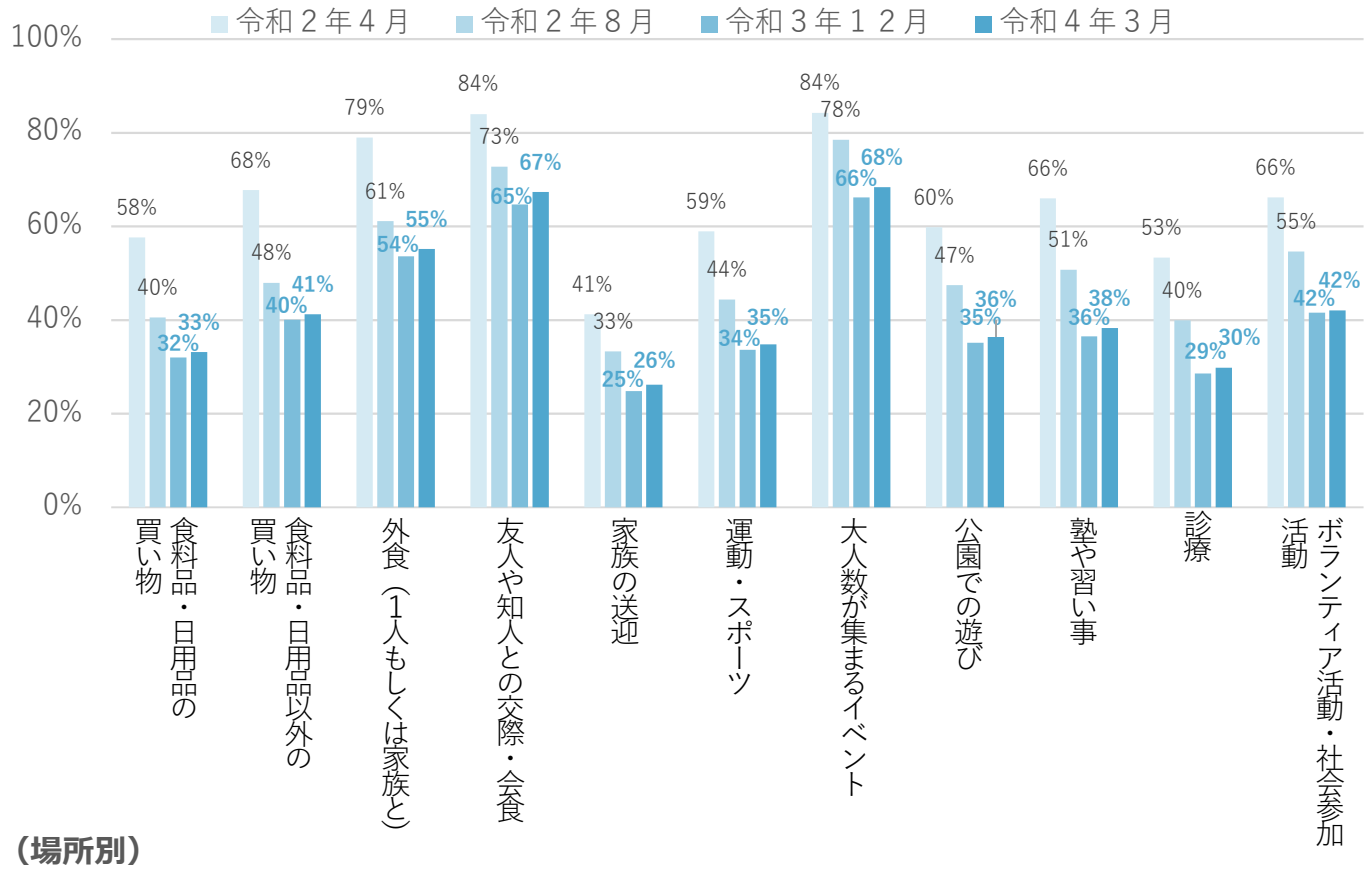
―R3年度 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要 ―

## 3 活動・場所別の自粛意識

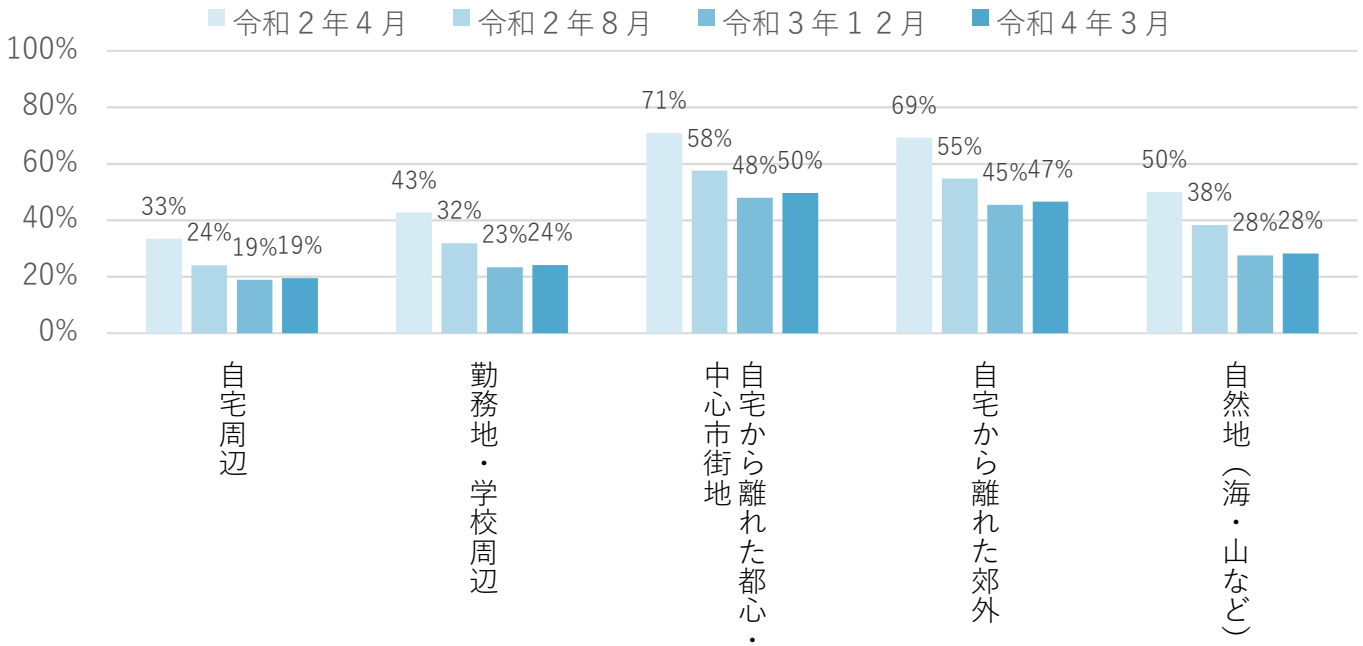
・活動別の自粛意識について、第1回緊急事態宣言時の令和２年４月に比べ活動を控えたいと回答する人の割合は3割前後減少している。
・場所別の自粛意識についても来訪を控えたいと回答する人の割合は減少している。

**当該活動、もしくは場所への外出を控えようと思うか否かという問いに対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合**

**（活動別）**




**（場所別）**



# 全国の都市における生活・行動の変化

―R3年度 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要 ―

## 4 テレワーク実施頻度別の行動変化

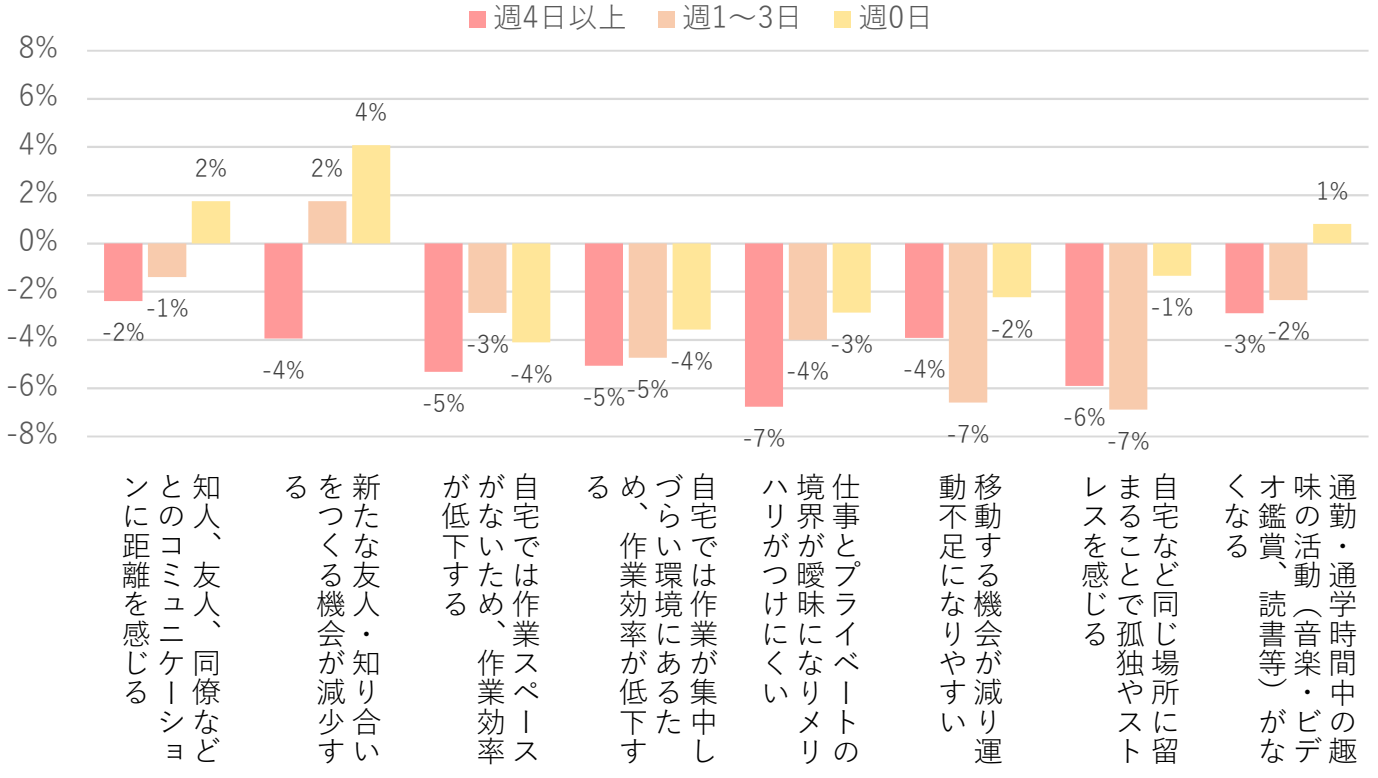
・「食料品・日用品の買い物」や「食料品・日用品以外の買い物」については、テレワークの実施頻度が高いほど活動場所が自宅周辺に変化している。
・リモート活動のデメリットに対する意識はテレワークの実施頻度が高いほど、低下する傾向がみられる。

**（活動別の最も頻繁に訪れた場所の変化（新型コロナ流行前と令和４年３月の比較））**

| 活動種類 | 分類 | 自宅周辺 | 勤務地・学校周辺 | 自宅から離れた都心・中心市街地 | 自宅から離れた郊外 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 食料品・日用品の買い物 | テレワーク高頻度層 | 5% | 0% | -1% | -3% |
| | テレワーク低頻度層 | 0% | 1% | 0% | -1% |
| | テレワーク非実施層 | -3% | 3% | -1% | 0% |
| ② 食料品・日用品以外の買い物 | テレワーク高頻度層 | 5% | 0% | -2% | -3% |
| | テレワーク低頻度層 | 2% | 3% | -1% | -3% |
| | テレワーク非実施層 | -1% | 3% | -2% | 0% |
| ③ 外食 | テレワーク高頻度層 | 10% | 1% | -10% | 0% |
| | テレワーク低頻度層 | 9% | -2% | -8% | 0% |
| | テレワーク非実施層 | 10% | -4% | -8% | 2% |
| ④ 散歩・休憩・子どもとの遊び等の軽い運動・休養・育児 | テレワーク高頻度層 | 7% | 1% | -3% | -3% |
| | テレワーク低頻度層 | 5% | 0% | -3% | -3% |
| | テレワーク非実施層 | 3% | 2% | -3% | -2% |
| ⑤ 映画鑑賞・コンサート・スポーツジム等の趣味・娯楽 | テレワーク高頻度層 | 7% | 0% | -4% | -5% |
| | テレワーク低頻度層 | 7% | 4% | -11% | -1% |
| | テレワーク非実施層 | 7% | 1% | -10% | 1% |

※この活動では外出していないとの回答者は集計対象外

**（リモート活動のデメリットに対する意識の変化（令和２年８月と令和４年３月の比較））**



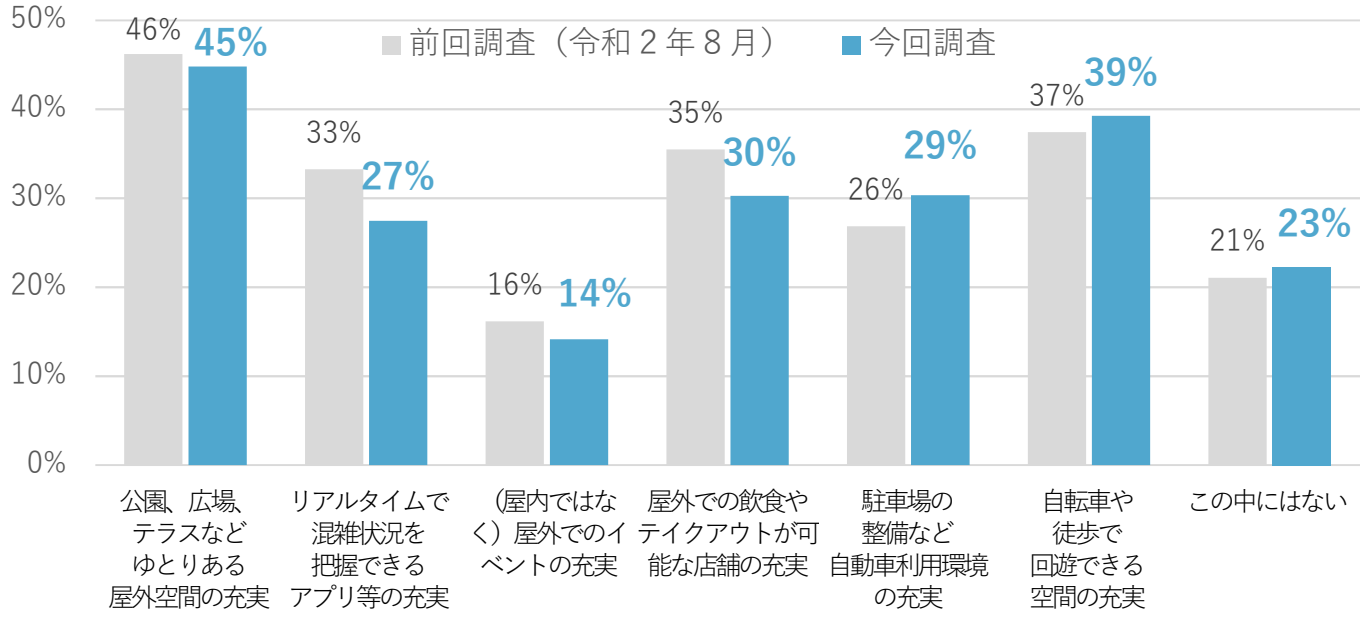

※各項目をデメリットと思うか否かに対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合
※自分の生活にあてはまらないとの回答者は集計対象外

# 全国の都市における生活・行動の変化

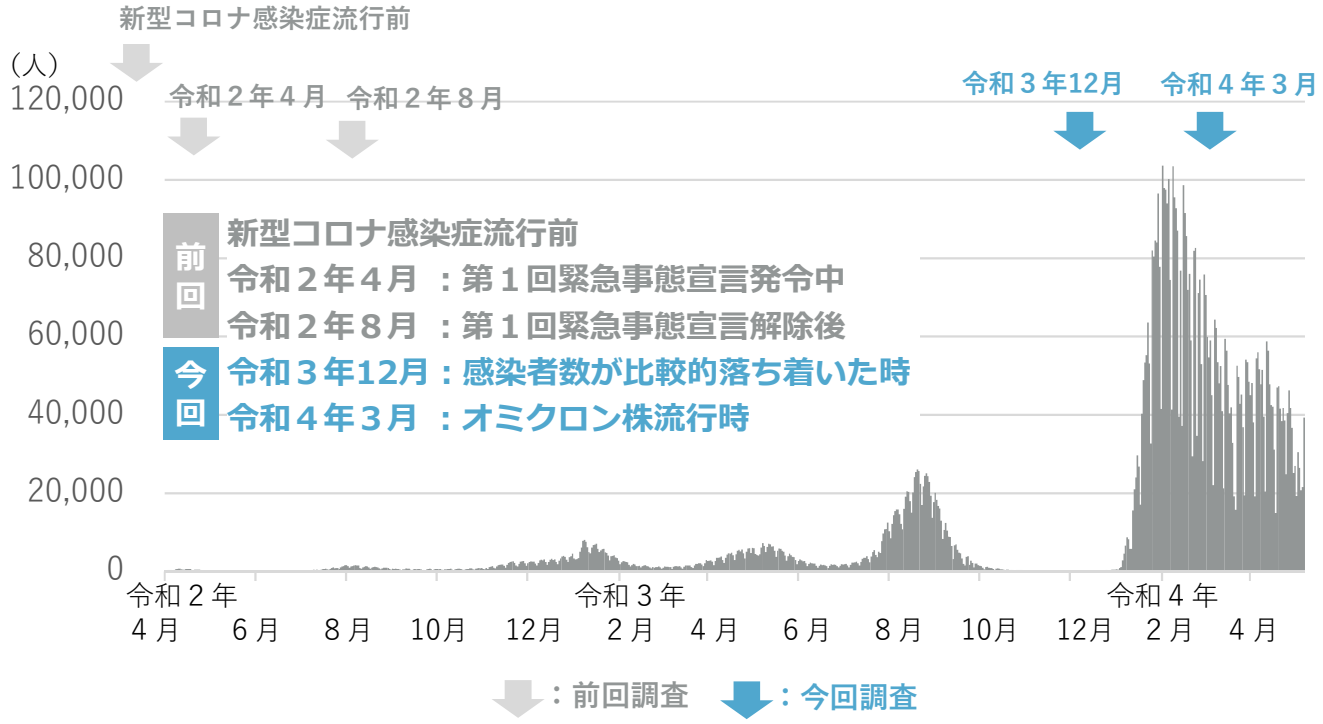
―R3年度 新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要 ―

## 5 都市空間に対する意識

- 「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実」「自転車や徒歩で回遊できる空間の充実」への要望は、前回調査（令和２年８月）から引き続き高い割合となっている。
- 「リアルタイムで混雑状況を把握できるアプリ等の充実」「屋外での飲食やテイクアウトが可能な店舗の充実」は5ポイント程度の減少がみられる。




## 参考 調査対象時期




出典：厚生労働省資料を参考に作成